

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111		
目的	企業等との密接な連携により、最新の実務の知識、技術、技能等を身につけることで、より実践的な職業教育の質を確保する。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業	工科技術専門課程		建築設計科		平成9年文部科学大臣告示第184号		-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	2250	975	0	1275	0	0	
単位時間								
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
160人		253人		9人		16人		25人
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価の方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定		
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月3日～9月4日 ■冬季:12月23日～1月6日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有		

就職等の 状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 株式会社アーネストワン 株式会社アルモ設計 株式会社宇部興産 清水建設株式会社 住友林業ホームテック株式会社 大東建託株式会社 高砂熱学工業株式会社 株式会社田中建設		主な資格・ 検定等  ビジネス能力検定ジョブパス3級 福祉住環境コーディネーター検定3級 商業施設士補 商業施設士 2級建築施工管理技術検定
	<b>■就職率</b> <sup>※1</sup> : 93.8 %		
	<b>■卒業者に占める就職者の割合</b> <sup>※2</sup> : 92.7 %		
	<b>■その他</b>  (平成 26 年度卒業者に関する 平成27年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	<b>■中途退学者</b> 4 名		<b>■中退率</b> 2.1 %
	平成26年4月1日 在学者 191 名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 187 名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)		
	<b>■中途退学の主な理由</b>  経済的理由(学費の支払いが困難)、病気、意欲喪失		
	<b>■中退防止のための取組</b> 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリಂಗールーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		
ホームページ	URL: <a href="http://www.neec.ac.jp/">http://www.neec.ac.jp/</a>		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業等と連携体制を確保して、授業科目等の開設、その他の教育課程を編成する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受けることができる体制をとることが可能な企業等を建設業界より選定している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月10日現在

名 前	所 属
岡本 賢	一般社団法人 日本建築美術工芸協会 会長
藤本 和典	株式会社ヤマダ・エスバイエルホーム 部長
出口 賢一	株式会社久米設計 業務本部企画部主管
田村 隆久	株式会社田中建設 総務部次長
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長
上田 耕作	日本工学院八王子専門学校 科長
浜田 雄一	日本工学院八王子専門学校 主任
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部課長

(開催日時)

第1回 平成27年2月23日 10:00～12:00

第2回 平成27年9月1日 13:00～15:00

第3回 平成28年2月(予定)

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計製図1	線の練習、文字の練習から始まり計図記号の書き方やスケールの考え方、製図道具の使い方など、製図の基礎を学習する。特に図面トレースと模型制作を繰り返して、製図に慣れて図面表現が自由にできるようにする。	有限会社 リノベイトダブリュ
建築CAD3	CAD/CGソフトを使用し、建築の三次元モデルで作成した空間を使ったシミュレーションや形態の検討を行います。また最新のプレゼンテーションを行うために、三次元モデルを基に映像の作成方法なども学ぶ。	一級建築士事務所 インターコア

## 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、最新の技術力と技能、人間力を修得する。

## 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月10日現在

名 前	所 属
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)
金子 英明	セントラルエンジニアリング株式会社グループマネージャー
細谷 幸男	八王子商工会議所事務局長
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社代表取締役
古木 勝紀	株式会社バンパー取締役
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック事務局長
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会事務局長
一瀬 康剛	株式会社アトム精密代表取締役
長畑 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会理事長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.neec.ac.jp/announcement/8964/](http://www.neec.ac.jp/announcement/8964/)

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.neec.ac.jp/announcement/8964/](http://www.neec.ac.jp/announcement/8964/)

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築設計科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル	自分の適性を理解し、社会人としての心構えについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習1	様々なスポーツの実習を開講します。	1・後	30	1			○		○	○		
		○	外国語1	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	1・前	30	2	○		○	○				○
○			建築計画1	建築を計画し、デザインするための基礎知識に加え、バリアフリーなど必要とされている分野についても学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			建築計画2	住宅建築およびオフィス、店舗などの商業建築の計画手法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			建築一般構造1	建築構造の種類、構造材の種類および木造建築の構造を中心に学びます。	1・前	45	2	○			○			○	
○			建築一般構造2	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造などの構造を中心に学びます。	1・後	45	2	○			○			○	
○			構造力学1	安全な建物を設計するための構造計算の基礎について学びます。	1・後	45	2	○			○			○	
○			建築生産1	木造在来工法と鉄筋コンクリート造の施工方法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			建築材料	木材、石材、コンクリート、金属、ガラスなどの材料特性について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			建築・インテリア入門	建築・インテリアの概念および建築倫理などについて幅広く学びます。	1・前	45	3	○			○				○

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築設計科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			建築設備	快適な空間づくりのために必要な設備の基本について学びます。	1・後	45	3	○			○		○		
○			福祉住環境コーディネーター対策	福祉住環境コーディネーター資格の試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	1・後	30	2	○			○				
○			設計製図1	図面トレース、模型制作を通じて設計製図の基礎について習得します。	1・前	90	3				○	○		○	○
○			設計製図2	建築図面の機能と読み方、図法の種類について基礎的な事項を学ぶとともに設計製図の知識を独立住宅などの設計演習課題を通して学びます。	1・後	90	3				○	○		○	○
○			建築CAD1	コンピュータの基礎的な操作と製図の基礎を習得します。	1・前	45	1				○	○		○	
○			建築CAD2	2・3次元CADを活用し、平面図・立面図などの設計図の基礎的な作成方法を習得します。	1・後	45	1				○	○		○	
○			建築演習1	建築に関する総合的演習を行います。	1・前	60	2				○	○		○	
○			建築演習2	建築に関する総合的演習を行います。	1・後	30	1				○	○		○	
○			図学・基礎デザイン	デッサン、平面構成図法、パースの作成などを通して、造形的・色彩的センスを養います。	1・前	45	1				○	○		○	○
		○	海外デザイン研修1	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	1・通	30	1				○		○	○	
		○	スポーツ実習2	様々なスポーツの実習を開講します。	2・後	30	1	○				○	○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築設計科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	外国語 2	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○			建築計画 3	学校、図書館などの公共施設の計画手法について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○			構造力学 2	構造的に安全な建物を設計するために、静定構造及び不静定構造の力学的仕組みについて学びます。	2・前	45	3	○			○			○	
○			建築生産 2	鉄骨構造やコンクリートブロック構造、建物の工事の流れや仕上げ工事について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○			建築法規 1	建築を安全・快適に設計するための法規の基礎について学びます。	2・前	45	3	○			○			○	
○			建築法規 2	建築の大きさ・高さなどルールや、建築士・建設業者が守るべき規則について学びます。	2・後	45	3	○			○			○	
○			建築史	建築様式を系統的に学び・美意識の変遷、デザインと建築技術の関係を理解します。	2・後	30	2	○			○			○	
○			環境工学	光、音・熱、空気などの室内環境に関わる基礎的な知識と建築計画への応用について学びます。	2・後	45	3	○			○			○	
○			建築積算	設計図書や仕様書の内容および各種経費などの積算・見積に関する基礎的な知識を学びます。	2・後	60	2	○			○			○	
○			施工管理技術者資格対策	2級施工管理技術検定試験の学科試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	2・前	60	4	○			○			○	
○			建築士資格対策	2級建築士試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	2・後	90	6	○			○			○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築設計科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			設計製図3	RC造・S造等の建築物の課題に取り組み、建築設計のコンセプトの作成、プランニング、プレゼンテーションなどの総合的な手法・技術を演習を通して学びます。計画、法規、構造、設備といった実務に必要な知識と設計手法を習得します。	2・前	90	3			○	○			○	○
○			設計製図4	2年間学んだことを基礎に、都市、各種建築物などの設計を中心にまとめます。	2・後	90	3			○	○		○		
○			建築CAD3	2・3次元CADを活用し、実務的な建築設計図の作成方法を実習的に習得します。	2・前	45	1			○	○			○	○
○			建築CAD4	CAD/CGソフトを使用し、3次元モデルや映像を作成します。	2・後	45	1			○	○		○		
○			建築演習3	建築に関する総合的演習を行います。	2・前	30	1			○	○		○		
○			建築演習4	建築に関する総合的演習を行います。	2・後	30	1			○	○		○		
○			材料実験	主要な建築材料の力学的性質を実験により学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
○			測量実習	距離・水準・角度などの測量の方法を習得します。	2・前	30	1			○	○		○		
		○	建築設計実習1	建築設計のコンセプトのまとめ方や表現技法などを演習を通じて身につけます。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	建築設計実習2	建築設計のコンセプト、デザインを表現するためのプレゼンテーション技法を演習を通して習得します。	2・後	45	1			○	○			○	
		○	インテリア設計実習1	インテリア設計のコンセプトのまとめ方や表現技法などを演習を通して身につけます。	2・前	45	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築設計科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	インテリア設計実習2	インテリア設計のコンセプト、デザインを表現するためのプレゼンテーション技法を演習を通して習得します。	2・後	45	1			○	○			○	
		○	建築構造・設備実習1	構造設計に必要な基礎知識、照明・配線など電気設備の基礎について学びます。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	建築構造・設備実習2	建物を建てるために必要な構造図面、設備図面の読み方、描き方について習得します。	2・後	45	1			○	○			○	
		○	建築施工実習1	建築工事のプロセスや建築現場見学を通して、建築施工の技術を習得します。	2・前	45	1			○	○			○	
		○	建築施工実習2	建築工事のプロセスや現場見学を通して、建築施工の応用技術を学びます。	2・後	45	1			○	○			○	
		○	海外デザイン研修2	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	2・通	30	1			○	○	○			
合計					50 科目		2250 単位時間		( 96 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目2325時間(103単位)取得および選択科目を1200時間(46単位)以上取得し、合計3525時間(149単位)以上取得すること	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。